



6/5臨時理事会後 メディアブリーフィング

登壇者：

一般社団法人日本ハンドボールリーグ代表理事 葦原一正

一般社団法人日本ハンドボールリーグ役員候補者選考委員会委員長 國井隆

2023年6月7日開催



次期理事（理事長予定者）について

次期理事（理事長予定者）

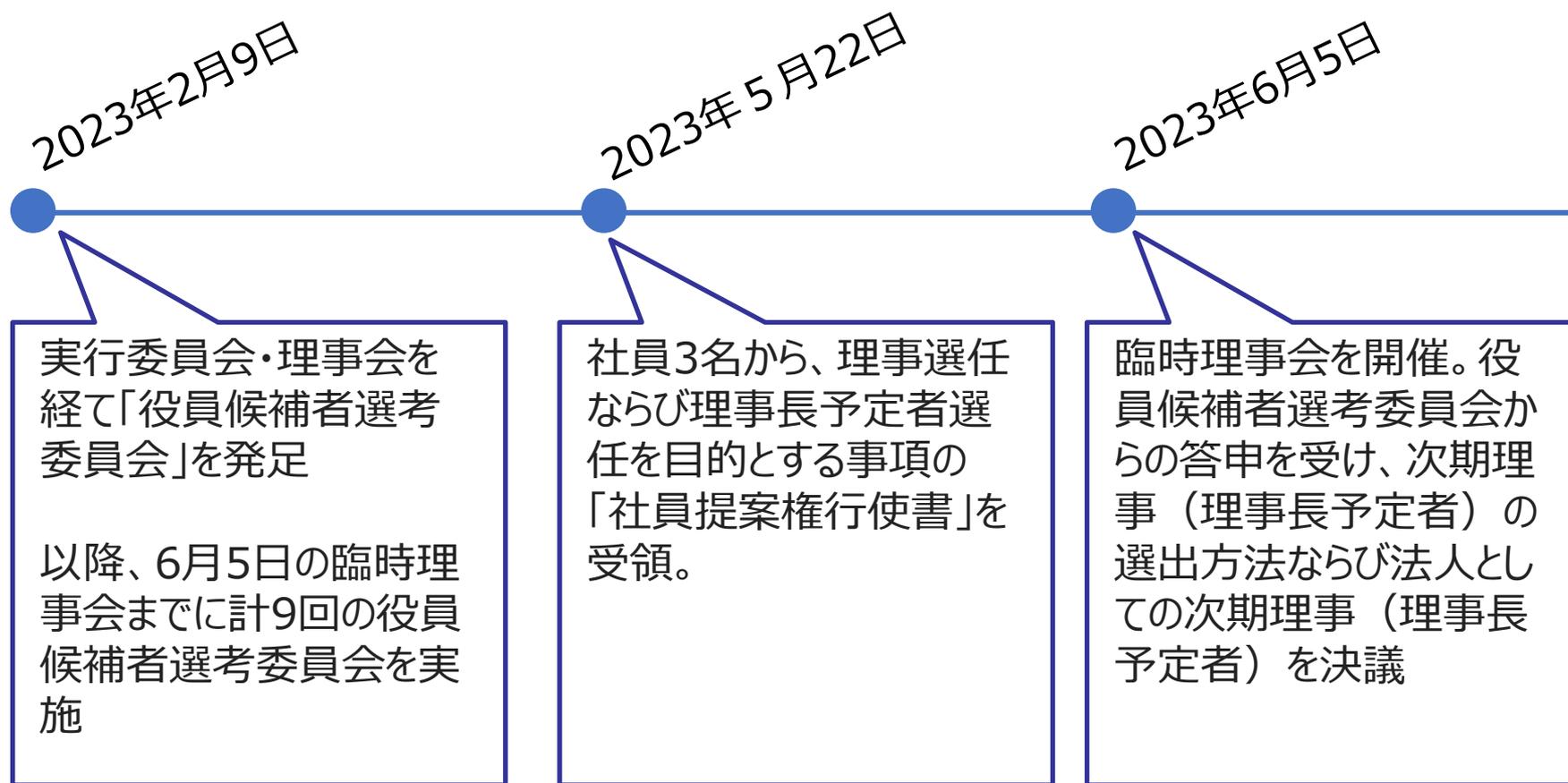
	候補者	地位・重要な兼職等の状況等
法人提案	米田 恵美 (1984年1月20日生)	一般社団法人日本ハンドボールリーグ理事 米田会計士事務所 代表
社員提案	中村 和哉 (1959年7月6日生)	株式会社北國銀行取締役会長（代表取締役） 北國銀行ハニービー GM

2023年6月14日(水)に2023(令和5)年度臨時社員総会を開催

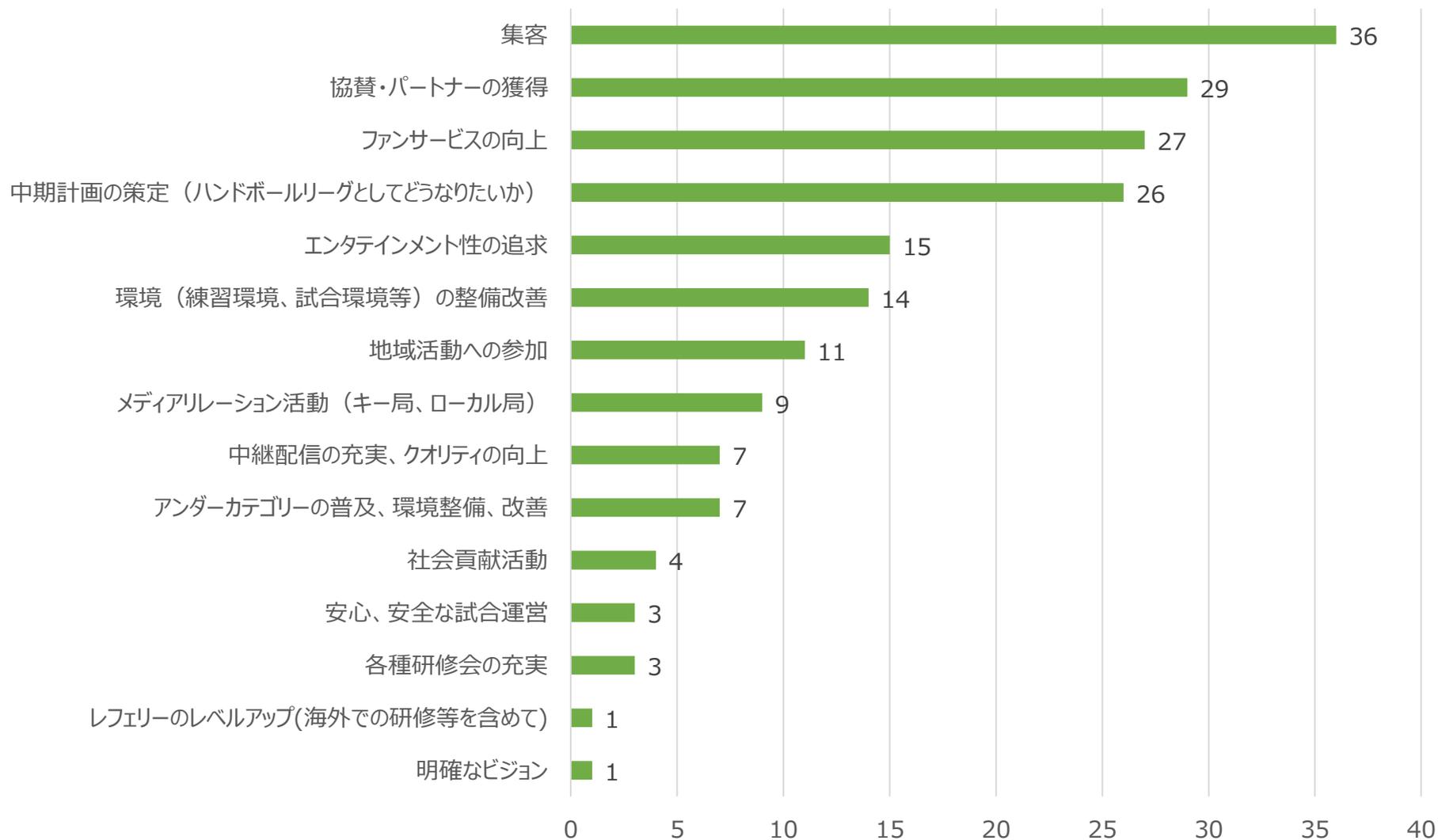
投票で次期理事（理事長予定者）を決定

※社員24名＋代表理事の計25名、賛成多数による

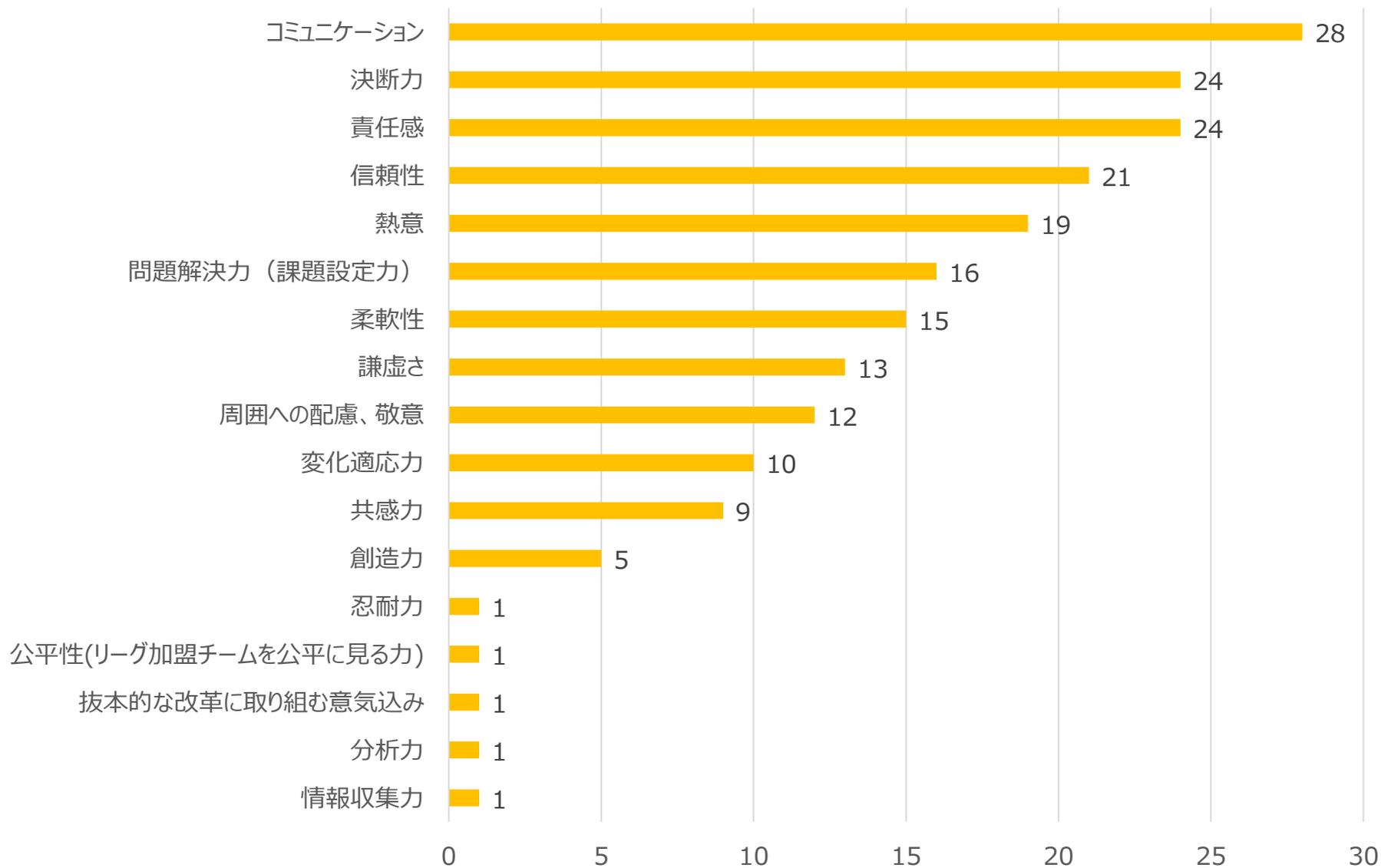
ここまでの流れ



新リーグに向けて重点的に取り組むべきと考えるもの（全体）



リーダー（理事長）として、より大切にしてほしいこと（全体）



理事長候補者に求める重点事項

項目	理由
<u>コミュニケーションについて</u> 1. チームや協会と意思疎通ができ、意見を集約し組織を統治できる 2. リーグやチームの経営、運営を理解してその課題(問題)を抽出して共有できる	アンケートから アンケートから
<u>営業</u> 1. 法人代表として日本ハンドボールリーグのパートナー獲得に向けて行動できる 2. パートナー・スポンサー獲得に向けたリソース確保ができる。	アンケートから 継続課題
<u>新リーグの準備</u> 1. 2024年9月開幕に向けての各種準備 2. ビジョン、中期計画、ブランディング 3. 制度設計、施策（リーグ戦や組織運営の仕方）	継続課題 アンケートから 継続課題
<u>チームサポート</u> 1. チーム主管において、試合開催・集客・ファンサービスを向上させる施策の実行	継続課題
<u>ガバナンス（組織統制）</u> 1. 規約、規程の見直し	継続課題

役員選考を進める上での前提

**スポーツ庁ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉への準拠
(役員候補者選考委員会規程、理事会規程)**

**一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に準拠
(役員候補者選考委員会規程)**

**当法人のガバナンスに基づく選定に準拠
(役員候補者選考委員会から理事会へ答申)**

**役員候補者選考委員会において決定した事項に準拠
(理事長予定者に求められる総論と要件、選定要件等)**

理事長候補者に求められる要件

理事長予定者に求められる総論と要件 (前回)

- 協会と二人三脚で進めていけるような発想をしていただける方。
- スポーツビジネスに精通していることを基本として、ハンドボールに限らず多くの成功や失敗を経験し、スポーツ全般をよく理解されている
- ハンドボール含めて、強いリーダーシップでスポーツをけん引できる広い視野をもっている。
- リーグの改革期において、協会やリーグが持つ権利を整理してそれをビジネスにつなげられる。

理事長予定者に求められる総論と要件 (今回/叩き台)

- **ハンドボール界の今までを理解して、現状を踏まえて、将来への成長戦略を策定できる**
- スポーツビジネスに精通していることを基本として、ハンドボールに限らず多くの成功や失敗を経験し、スポーツ全般をよく理解している
- **強いリーダーシップと、高い調整力でリーグ全体を統率し、コミュニケーションスキルをもっており、説明責任を十分に果たせる。**

理事会に求める要件

1. ハンドボール、スポーツの本質を理解し、伝えられること

日本国内におけるスポーツ政策の重要性や日本ハンドボールリーグが担う役割について、自らがもつ知識や見識に基づき、その本質を高められる。

2. プロフェッショナル(ハンドボール競技、財務、マーケティング、ガバナンス)

日本ハンドボール界の発展、拡大について、競技そのものや財務・マーケティング、内部統制・ガバナンスに関して、日本ハンドボールリーグに必要なものを提供し、そして構築できる。

3. 継続性

ハンドボールの歴史や組織を理解し、過去から作り上げてきたもの（有形、無形問わず）のなかで、将来に渡っても継承していくもの、進化させなければいけないものを理解し、未来に何を残すかを見極められる。

4. 検証・改革

日本ハンドボールリーグを成長・拡大させる過程において、今の組織の課題を表面化させ、その改革（将来/未来をよくする）方法や方向性、変化するニーズに向き合い、改革の方向性や行動の指針を、協会会長とともに協議検証して進むことができる。

1. ハンドボール、スポーツの本質を理解し、伝えられること

日本国内におけるスポーツ政策の重要性や日本ハンドボールリーグが担う役割について、自らがもつ知識や見識に基づき、その本質を高められる。

2. プロフェッショナル(ハンドボール競技、財務、マーケティング、ガバナンス)

日本ハンドボール界の発展、拡大について、競技そのものや財務・マーケティング、内部統制・ガバナンスに関して、日本ハンドボールリーグに必要なものを提供し、そして構築できる。

3. 継続性

ハンドボールの歴史や組織を理解し、過去から作り上げてきたもの（有形、無形問わず）のなかで、将来に渡っても継承していくもの、進化させなければいけないものを理解し、未来に何を残すかを見極められる。

4. 検証・改革

日本ハンドボールリーグを成長・拡大させる過程において、今の組織の課題を表面化させ、その改革（将来/未来をよくする）方法や方向性、変化するニーズに向き合い、改革の方向性や行動の指針を、**チーム**とともに協議検証して進むことができる。

理事長候補者の評価項目

評価項目

1.	規 程 要 件	一般社団・財団法人法および関係法令法規に定める要件を満たしている
2.		将来構想の策定やスポーツリーグの経営に対する深い見識を有しそれらの推進に相応しい人格を有する
3.		企業経営全般、法律、会計、財務、スポーツ分野において専門的な知識や経験を有している
4.	経 歴	スポーツリーグ及びNFでの事務局での従事経験を有している
5.		法人（一般企業、スポーツ団体等）での役員経験を有している。
6.	実 務 経 験	人事・採用・人材開発、マネジメントに関わる業務への従事経験や知識を有している
7.		プロスポーツ興行の企画立案経験を有している。
8.		事業計画・予算計画策定の経験を有している
9.		プロスポーツリーグ(もしくはチーム)での経営(運営)に従事した経験を有している
10.		事業戦略立案、中期経営計画、財務計画立案の知識を有している
11.	業 務 知 識	海外リレーション（国際関連業務）に関する知識を有している
12.		企業法務や実務に関する知識を有している。
13.		ハンドボール選手経験
14.	競 技 面	ハンドボールチームの運営経験
15.		ハンドボールに対する理解、造旨を有する
16.	経 営 者	協会・リーグでの代表者（会長、代表理事、チエアマン、チエア、理事長）の経験
17.		社外役員(取締役、理事、監査役、監事)の経験
18.		企業代表者としての経験

◎：十分に経験があると認められる、○：経験があることが資料で確認できる、▲：経験があることをヒアリングで確認した、－：該当なし

理事長選定 経緯

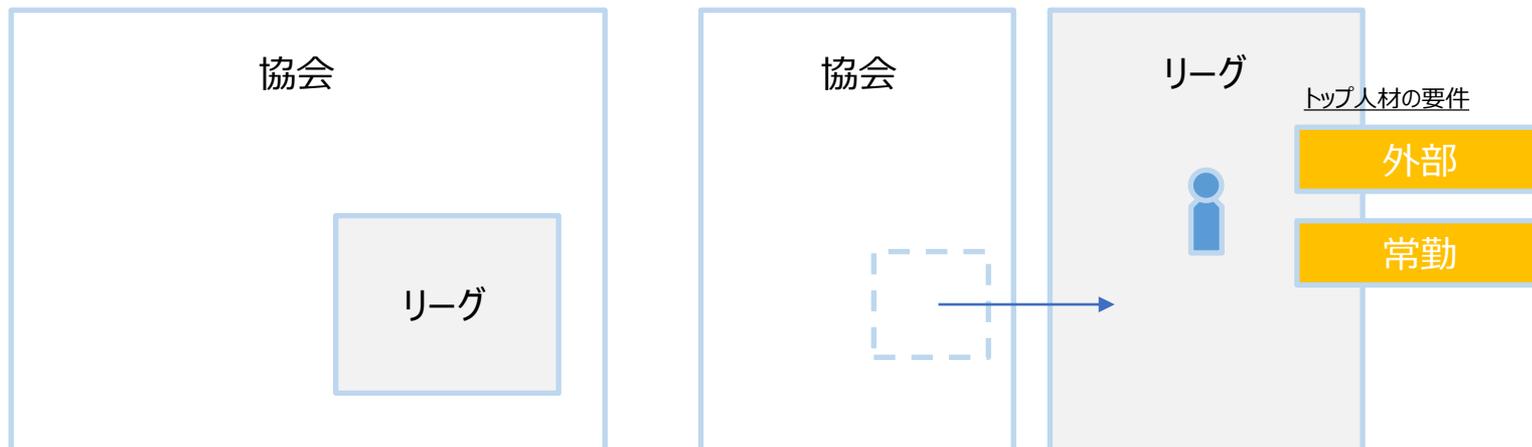
2年前のリーグ法人化の際、これからのハンドボール界の発展を考え
トップ人材は、「外部」で「常勤」であることを考慮し選定

2年前（2021年）まで

2021年以降

協会法人内にリーグ

リーグは法人独立化



リーグ運営の最大の生命線は「公正さ（フェアネス）」

チーム関係者が理事長になる主なリスク

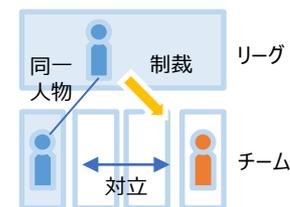
チーム関係者が理事長になると、一般論として3つの大きなリスクが存在

リスク①

制裁決定権限所持

→“罰せられる”

- 規約及び諸規程において理事長に付与された権限行使（様々な事項についての理事長の決定権限、選手や各チームに対する調査遂行・制裁決定権限等）にあたり、著しい利益相反関係を生じさせ得るものであって、制度的にリーグ運営の公正性が担保できない



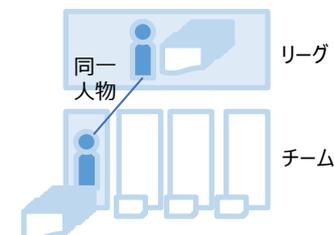
(例) 相手チームの試合中暴言に対する制裁（けん責/勝ち数減等）

リスク②

情報の非対称性

→“沢山知れる”

- 利害関係当事者間で持っている情報に格差が発生。理事長は各チームからリーグに対して寄せられる様々な情報（例：統一契約書等）に対してアクセス可能となる点も、チーム間の公正性が担保できない。



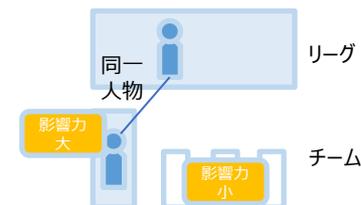
(例) 選手契約情報量（含・年俸）の格差

リスク③

ルール策定の公正さの担保

→“優位に作れる”

- あらゆる競技ルール策定（例：プレーオフスケジュール、移籍ルール、外国籍選手ルール等々多数）や事業ルール策定の際に、必ずチーム間のコンフリクトが発生。今後新リーグ制度設計フェーズでは通常フェーズよりもより高度な公正さが求められる。



(例) プレーオフスケジュールや移籍ルールなど